

平成 12 年度全国大会第 5 5 回年次学術講演会 実施要領

実施期日 --- 2000 年 9 月 21 日(木), 22 日(金), 23 日(土) の 3 日間

実施場所 --- 東北大学川内北キャンパス講義棟 (仙台市青葉区川内)

実施要領が大きく変わります!

- ・講演概要集を CD-ROM 化し登録参加手続きをした参加者全員に配布します。
- ・インターネット WWW 上で、講演の申込みと投稿原稿の受付をします。
- ・投稿原稿は PDF ファイル形式で受け付けます。
- ・参加費用を見直し、講演者および聴講者の全員から登録参加料を一律いただきます。
- ・参加者は事前に登録参加申し込みが必要です。

下の「読み方」を参考
に本実施要領を
熟読して、申し込
んでください。

実施要領の読み方

土木学会第 55 回年次学術講演会(平成 12 年度全国大会)を開催いたします。今大会から、講演申込方法、聴講者の参加申込方法、料金体系、講演概要集の取り扱いが大きく変わります。まず次ページの「日程一覧」、「講演者・聴講者の資格と登録参加料」、「1. 年次学術講演会の概要」をご覧ください。その上で以下の該当する部分を熟読の上、手続きを取っていただけますようお願いいたします。

講演の申込みをされる方(電子申込みをする場合)

3 ページ

今回よりインターネットを利用した電子申込みを原則とします。原稿ファイルの形式は PDF 形式のみ受け付けます。講演申込み料は 10,000 円(学生は 7,000 円)になります(講演申込料, 参加費, CD-ROM 版講演概要集代を含む)。大会当日に登録参加料を支払う必要はありません。なお、最新の情報につきましては、土木学会ホームページ <http://www.jsce.ac.jp> をご覧ください。

講演の申込みをされる方(電子申込みをしない(紙面申込みをする)場合)

4 ページ

今回は従来通り紙面による講演申込みも受け付けます。ただし、この場合の講演申込み料は 15,000 円(学生は 12,000 円)になります(電子化経費, 講演申込料, 参加費, CD-ROM 版講演概要集代を含む)。大会当日に登録参加料を支払う必要はありません。

講演はせず聴講のみで参加される方

5 ページ

今回より事前の登録参加申込みが原則となります。登録参加料は 10,000 円(学生は 7,000 円)に変更になります(参加費, CD-ROM 版講演概要集代を含む)。登録参加申込み期間外での申込みも可能ですが、登録参加料は割り増しになります。大会当日, CD-ROM 版概要集が閲覧できるサービスを行う予定はありませんので、登録参加申込み期間内で申込みを行い事前に CD-ROM 版概要集入手されることをお勧めいたします。

印刷版講演概要集の購入を希望される方

6 ページ

従来通りに印刷・製本された講演概要集を購入されたい方は別途事前に申し込んでください。事前申込みに応じて必要部数だけ作成し、販売いたします。大会当日は用意させて頂く印刷版講演概要集の数に限りがありますので、売切れの場合はご容赦ください。

目次

実施要領の読み方.....	共通セッションテーマ.....7
日程一覧、講演者・聴講者の資格と登録参加料.....1	部門別セッション名.....9
1. 年次学術講演会の概要.....2	講演申込要領(電子申込み).....11
2. 講演の申込みをされる方(電子申込みが利用できる場合).....3	講演申込要領(紙面申込み).....23
3. 講演の申込みをされる方(電子申込みが利用できない場合).....4	講演申込書.....24
4. 講演はせず聴講のみで参加される方.....5	講演原稿執筆要領.....28
5. 印刷版講演概要集の購入を希望される方.....6	聴講者の登録参加申込要領.....30
	聴講者の登録参加申込書.....31

日程一覧

(年次は西暦 2000 年)

月	講演者 (電子申込み)	講演者 (紙面申込み)	聴講のみの参加者	印刷版講演概要集購入者
3	講演申込みの受付開始： 3月1日(水)12時 非会員の方は3月21日まで に入会手続きを済ませてくだ さい。	講演申込みの受付開始： 3月1日(水)10時		
4	講演申込みの締切： 4月4日(火)17時 講演申込みの確認： 4月10日～17日	講演申込みの締切： ・郵送の場合 4月3日(月)(当日消印有効) ・持参の場合 4月4日(火)12時		
5				
6	学会誌 6月号において大会概要の掲載 土木学会ホームページ http://www.jsce.or.jp において大会案内の掲載			
			登録参加申込みの受付開始： 6月1日(木)10時	購入申込みの受付開始： 6月1日(木)10時
7	学会誌 7月号において大会案内の掲載			
			登録参加申込みの締切 ・郵送の場合 7月31日(月)(当日消印有効) ・持参の場合 7月31日(月)12時	購入申込みの締切 ・郵送の場合 7月31日(月)(当日消印有効) ・持参の場合 7月31日(月)12時
8				
9	参加証・CD-ROM 版講演概要集の受領： 9月上旬			印刷版講演概要集の受領： 9月上旬
	全国大会開催： 9月21日(木), 22日(金), 23日(土)			

講演者・聴講者の資格と登録参加料

	講演者 (電子申込み)	講演者 (紙面申込み)	聴講のみの参加者 (6月1日～7月31日受付)		聴講のみの参加者 (8月1日～当日受付)	
			会員	非会員	会員	非会員
資格	土木学会会員に限る ¹		会員	非会員	会員	非会員
登録参加料	10,000円 ²	10,000円 ² +5,000円 ⁴ =15,000円	10,000円 ³	20,000円 ⁵	12,000円 ^{3,6}	20,000円 ⁵
一般						
学生	7,000円 ²	7,000円 ² +5,000円 ⁴ =12,000円	7,000円 ³	10,000円 ⁵	8,400円 ^{3,6}	10,000円 ⁵

- ¹ 2000年3月21日までに入会手続きが終了していれば、会員番号がない方も会員として扱われます。それまでに入会ください。
- ² 講演者の登録参加料には講演申込料、参加費、CD-ROM 版講演概要集代が含まれています。
- ³ 聴講者の登録参加料には参加費、CD-ROM 版講演概要集代が含まれています。
- ⁴ 講演原稿の電子化にかかる経費として徴収させていただきます。
- ⁵ 非会員の登録参加料は割増になります。
- ⁶ 登録参加申込みの期間(2000年6月1日～7月31日)を過ぎますと、2割増分の登録参加料を頂戴いたします。

問合せ先一覧

問合せ内容	担当	住所	電話/Fax	E-mail
講演申込 (電子申込)	土木学会事務局企画広報室 担当：赤池	〒160-0004 東京都新宿区四谷1丁目 無番地	03-3355-3433/ 03-5379-0125	inf2@jsce.or.jp
講演申込み (紙面申込) ・参加登録申込み	土木学会事務局総務課 担当：和志武		03-3355-3442/ 03-5379-2769	
入会手続き・仮会員番号	土木学会事務局会員課 担当：林, 竹田		03-3355-3443/ 03-5379-2769	member@jsce.or.jp

年次学術講演会の概要

(1) 実施期日 2000年9月21日(木),22日(金),23日(土)
の3日間

(2) 実施場所 東北大学川内北キャンパス講義棟(仙台市青葉区川内)

(3) 講演部門

講演部門は次の7部門および共通セッションからなります。

第 部門 応用力学, 構造工学, 鋼構造, 耐震工学など

第 部門 水理学, 水文学, 河川工学, 水資源工学,
港湾工学, 海岸工学, 海洋工学, 環境水理など

第 部門 地盤工学, 基礎工学, 岩盤工学, 土木地質等

第 部門 道路計画, 鉄道計画, 土木計画, 交通計画,
都市計画, 国土計画, 測量など

第V部門 土木材料, 土木施工法, 舗装一般, コンクリ
ートおよび鉄筋コンクリート工学など

第 部門 工事マネジメントシステム, 設計, 施工・
補修技術, 環境公害対策, 建設労務, 契約・
積算など

第 部門 環境システム, 環境・保全, 環境管理, 用排
水システム, 廃棄物など

各部門の具体的なセッション名は, 9, 10 ページをご覧ください。

共通セッション

上記の7部門を越えた研究および複数の部門に関連する研究のテーマを対象として, 共通セッションを設けます。今年度の共通セッションのテーマは, 公募によるテーマから7~8ページに示す12件が仮テーマとして選定されました。共通セッションの最終的なテーマ名は講演申込み完了後に決定されます。

(4) 講演内容

年次学術講演会にふさわしい内容を備えたものとし, 原則として未発表のものとしします。

(5) 講演時間

1題あたりの講演時間は, 質疑時間を除く原則として7分とします。その他のセッションの運営については座長の指示に従ってください。

(6) 講演方法

各部門とも個人発表のみとします。一般発表では, OHP(オーバーヘッドプロジェクター)を用いる用意をし, 聴講者が発表自体に注意を集中できるよう配慮してください。

(7) 講演申込題数

全部門を通じて講演者(登壇者)1人につき1題に限りま
す。

(8) 優秀講演者表彰について

例年通り, 優れた講演を行った若手研究者, 技術者を表彰いたします。詳細は学会誌7月号の全国大会案内に掲載いたします。

(9) その他

英語による講演も歓迎します。英文講演概要は, 定められた英文執筆要領(必要な場合は, 本部事務局総務課までお申し出ください)に従って作成してください。なお, ポスターセッションは, 本年度も休止とさせていただきます。

講演の申込みをされる方（電子申込みをする場合）

（1）講演申込みの資格

講演申込みができるのは、申込時点で個人の土木学会の会員に限り、非会員の方はまず土木学会ホームページ <http://www.jsce.or.jp> をご覧になり（入会申込書はホームページから取り出せます）遅くとも2000年3月21日（火）までに土木学会入会手続きを済ませてください（郵送の場合は締切日までに到着のもののみ有効）期限を過ぎると電子申込みはできません。なお、海外の協定14学協会会員は会員として取扱い致します（学協会名はお問合せください）。

上記期限までに入会手続きを済ませた方で、講演申込みの時点でまだ会員番号の無い場合は、下記の土木学会事務局会員課に問合せください。

なお、講演申込み期間の締切り日際には事務処理の混雑が予想されますので、あらかじめ余裕をもって土木学会入会の諸手続きをとられるようお願いいたします。

入会手続きには、申込書提出（当日消印有効）と、会費納入（送金の場合は会費の払込票兼受領証（郵便振替）のコピーを添付して、土木学会事務局会員課まで郵送あるいは持参）が必要です。

仮会員番号の問合せ・申込書等送付先：

（社）土木学会事務局会員課

FAX:03-5379-2769, TEL:03-3355-3443

E-mail:member@civil.or.jp

お問合せはなるべくFAXかE-mailをお願いします。

（2）講演の電子申込

2000年3月1日（水）～4月4日（火）17時までの期間内に、土木学会ホームページ <http://www.soc.nacsis.ac.jp/jsce2/> を使って、講演申込書と講演原稿を同時に投稿してください。具体的な方法は11ページ掲載の「講演申込要領（電子申込み）」をご覧ください。なお、電子投稿の際、土木学会会員番号や生年月日等の入力が必要となります。協定学協会会員の電子申込は記載内容が異なるため、下記の全国大会委員会係へお問合せご連絡ください。

電子申込みはインターネットのみで受け付けます。フロッピーディスク等の郵送、持参による受付は致しませんのでご注意ください。

電子申込みの場合も、登録参加料（講演料）の振込みは電子化しておりません。本誌綴じ込みの郵便振替用紙を使用して申込み期限までに登録参加料をお支払ください。また、入金確認のためと電子申込みに関する事務的確認作業等のため、官製はがきに講演者の氏名、会員番号、電子申込みを行った際に発行される受付番号、および連絡先住所、氏名、電話番号、電子メールアドレスを明記の上、払込票兼受領証のコピーを添付して、4月4日（火）（当日消印有効）までに下記の土木学会事務局全国大会係まで郵送してください。事務局にて確認後、講演申込みを受理します。講演申込みが受理された方には、大会前に講演者用の参加証およびCD-ROM版講演概要集をお送りします。

原稿は28ページ掲載の「年次学術講演会原稿執筆要領」に

従ってご執筆ください。電子申込みした論文内容が正しく転送されているかどうかの確認期間を2000年4月10日（月）～17日（月）まで設けます。講演申込み者自身で必ず確認してくださいようお願いいたします。

申込み期間締切り間際に投稿が集中しますと、予期せぬ事態によりサーバーがダウンし受付ができなくなる恐れがあります。締切り間際の投稿は極力避けて頂くようお願いいたします。

なお、原稿提出なきもの、登録参加料の納付なきもの、電子受付で講演会原稿執筆要領に準じていないもの、および期限後の電子投稿のものは原則として受理できません。また、講演原稿も電子申込みと同時手続きですので、お忘れなきようお願いいたします。原稿の差し替えおよび修正には応じられません。必ず最終原稿を電子投稿してください。

問合せ・郵送先：

〒160-0004 東京都新宿区四谷1丁目無番地
（社）土木学会事務局 全国大会委員会係
TEL:03-3355-3433, FAX:03-5379-0125
E-mail: inf2@jsce.or.jp

登録参加料振込確認票の記入例

官製はがき	おもて	うら
〒160-0004		登録参加料振込確認票 <講演申込み（電子申込）>
東京都新宿区四谷1丁目無番地		講演者 氏名：四谷太郎 会員番号：190099999 受付番号：1200001
社団法人土木学会事務局 全国大会委員会係		連絡先 住所：新宿区四谷1丁目無 土木大学工学部 氏名：四谷太郎 電話番号：03-3355-3441 アドレス：yotsuya@doboku-u.ac.jp
		払込票兼受領証のコピーを貼り 付ける。

（3）講演者の登録参加料

講演1件につき登録参加料（講演申込料、参加費、CD-ROM版講演概要集代を含む）として10,000円（学生7,000円）を綴じ込みの郵便振替用紙を使用して申込期限までに下記口座へお送りください。振込手数料は各自ご負担願います。

この登録参加料には、講演申込料、大会参加費、全部門の講演原稿を掲載したCD-ROM版講演概要集代が含まれていません。なお登録参加料は、申込後に発表を取り消した場合でも、返金致しません。

年次学術講演会 郵便振替口座：

口座番号：00180 8 16210

口座名：社団法人土木学会

（4）採否

採否についてはご一任ください。なお、投稿された原稿はお返し致しません。

講演の申込みをされる方（電子申込みをしない（紙面申込みをする）場合）

（1）講演申込みの資格

講演申込みができるのは、申込時点で個人の土木学会の会員に限り、非会員の方はまず下記の土木学会事務局会員課までなるべく FAX・E-mail により土木学会入会申込書類をご請求ください（土木学会ホームページからの取り出しまたは支部でも入手可）。申込締切の4月4日（火）までの講演申込み時に、講演申込書および講演原稿と一緒に、入会申込書および会費の払込票兼受領証（郵便振替）のコピーを添付して、郵送あるいは持参してください。なお、海外の協定14学協会会員は会員として取扱いいたしますので、所属する学協会証のコピーを添付してください（学協会名はお問合せください）。

郵送の場合は講演申込書の会員番号記入欄に「手続き中」と記入してください。入会手続きはできるだけ事前に講演申込とは別に済ませて頂くようお願いします。

事前に入会手続きを済ませた方で、講演申込みの時点でまだ会員番号のない場合は、下記の土木学会事務局会員課に問合せください。

なお、講演申込み期間の締切り日間際には事務処理の混雑が予想されますので、あらかじめ余裕をもって土木学会入会の諸手続きをとられるようお願いいたします。

土木学会入会申込書類の問合せ・送付先：
（社）土木学会事務局会員課
FAX:03-5379-2769, TEL:03-3355-3443
E-mail:member@jsce.or.jp

お問合せはなるべく FAX か E-mail でお願います。

（2）講演の申込方法

申込期間内に、土木学会事務局まで講演申込書と講演原稿を同時に郵送あるいは持参してください。申込期間は以下の通りです。

・紙面申込みで郵送の場合：

2000年3月1日（水）～4月3日（月）（当日消印有効）

・紙面申込みで持参の場合：

2000年3月1日（水）～4月4日（火）12時

具体的な方法は23ページから掲載の「講演申込要領（紙面申込み）」をご覧ください。なお、紙面により投稿された申込内容と講演原稿を電子化するための経費（電子化経費）として登録参加料とは別に5,000円徴収いたします。

協定学協会会員の申込は、23ページの講演申込要領および記載例をご参照ください。

本誌綴じ込みの郵便振替用紙を使用して申込み期限までに登録参加料と電子化経費をお支払ください。講演申込書に所定事項を記入し、講演原稿と登録参加料を郵便局で納入した際の払込票兼受領証のコピーを添えて、郵送あるいは持参してください。

封筒に一般セッションは「第 部門」と、共通セッション

は「共通」と朱書きしてください。なお、複数編を一括して申し込む場合でも1編ごとに封筒に入れて、前述の朱書きを厳守してください。

専用の原稿用紙はありません。原稿は28ページ掲載の「講演原稿執筆要領」に従ってご執筆ください。

なお、登録参加料の納付なきもの、期限後の消印のもの、および期限後に持参したものは受理できません。また、講演原稿も同時提出ですので、お忘れなきようお願いいたします。原稿の差し替えおよび修正には応じられません。必ず最終原稿を提出してください。

問合せ・郵送先：

〒160-0004 東京都新宿区四谷1丁目無番地
（社）土木学会事務局 全国大会係
TEL:03-3355-3442, FAX:03-5379-2769
E-mail: inf2@jsce.or.jp

紙面による講演申込みの封筒の記入例

〒160-0004

東京都新宿区四谷1丁目無番地

社団法人土木学会事務局
全国大会委員会係

「第 部門」

朱書きで「第 部門」または「共通」

（3）講演者の登録参加料

講演1件につき登録参加料（講演申込料、参加費、CD-ROM版講演概要集代を含む）として10,000円（学生7,000円）+電子化経費5,000円を綴じ込みの郵便振替用紙を使用して申込期限までに下記口座へお送りください。振込手数料は各自ご負担願います。

この登録参加料には、講演申込料、大会参加費、全部門の講演原稿を掲載したCD-ROM版講演概要集代が含まれていません。なお登録参加料は、申込後に発表を取り消した場合でも、返金致しません。

年次学術講演会 郵便振替口座：
口座番号：00180 8 16210
口座名：社団法人土木学会

（4）採否

採否についてはご一任ください。なお、投稿された原稿はお返し致しません。

講演はせず聴講のみで参加される方

年次学術講演会の聴講のみを希望される方は、2000年6月1日(土)から7月31日(月)までに登録参加申込みの手続きを済ませてください。講演者は、講演申込みを登録参加申込みと兼用とするため改めて手続きをする必要はありません。

講演プログラム等の詳細につきましては、2000年6月に土木学会ホームページと学会誌7月号において公表します。ご参考ください。

(1) 聴講のための登録参加申込みの資格

聴講のための参加登録申込みができるのは、個人の土木学会の会員、非会員いずれも可能です。ただし、登録参加料が異なります。詳細は、(3)聴講者の登録参加料に記載します。非会員の方はこれを機会に学会への入会をお勧めします。

学会への入会手続きをされる方は、まず下記の土木学会事務局会員課までなるべくFAX・E-mailにより土木学会入会申込書類をご請求ください。申込締切の7月31日(月)までに会費等の納入を済ませた後、入会申込書および会費の払込票兼受領証(郵便振替)のコピーを添付して、郵送あるいは持参してください(入会申込書は土木学会ホームページからの取り出しまたは支部でも入手可)。なお、海外14学協会会員は会員として取扱いいたしますので、所属する学会員証のコピーを添付してください(学協会名はお問合せください)。

なお、聴講者の登録参加申込み期間の締切り日間際には事務処理の混雑が予想されますので、あらかじめ余裕をもって土木学会入会の諸手続きをとられるようお願いいたします。

土木学会入会申込書類の問合せ・送付先：

(社)土木学会事務局会員課

FAX:03-5379-2769, TEL:03-3355-3443

E-mail:member@jsce.or.jp

お問合せはなるべくFAXかE-mailをお願いします。

(2) 聴講者の登録参加申込み方法

下の登録参加の申込期間内に、土木学会事務局まで登録参加申込書をFAX、郵送あるいは持参してください。

・FAX あるいは持参の場合：

2000年6月1日(木)～7月31日(月)12時

・郵送の場合：

2000年6月1日(木)～7月31日(月)(当日消印有効)

30ページ掲載の「聴講者の登録参加申込要領」掲載の申込書に所定事項を記入し、登録参加料を郵便局で納入した際の払込票兼受領証のコピーを添えて、FAX、郵送あるいは持参してください。

封筒に、「登録参加申込書」と朱書きしてください。複数の登録参加申込書を一括して申込み場合は、「申込数」も封筒に朱書きしてください。

なお、上記申込期間後や大会当日の登録参加申込みもできます。ただし、登録参加料が異なりますのでご注意ください。

問合せ・FAX または郵送先：

〒160-0004 東京都新宿区四谷1丁目無番地

(社)土木学会事務局 全国大会係

TEL:03-3355-3442, FAX:03-5379-2769

E-mail: inf2@jsce.or.jp

聴講者の登録参加申込みの封筒の記入例

〒160-0004
東京都新宿区四谷1丁目無番地
社団法人土木学会事務局
全国大会委員会係
「登録参加申込書」、「申込数3」
朱書き

(3) 聴講者の登録参加料

聴講者の登録参加料(参加費、CD-ROM版講演概要集代を含む)は、個人の土木学会の会員、非会員の別、および申込期間内の受付、期間後の受付の別によって、料金が異なります。下表をご覧ください。

今回から非会員の登録参加料は、会員の登録参加料とは別料金とさせていただきます。登録参加申込みとともに入会手続きをなさることをお勧めします。

		聴講者の登録参加申込時期	
		申込期間内 (2000/6/1～7/31)	申込期間後 (2000/8/1～当日)
会員	一般	10,000円	12,000円
	学生	7,000円	8,400円
非会員	一般	20,000円	20,000円
	学生	10,000円	10,000円

郵便振替用紙を使用して申込期限までに下記口座へお送りください。なお振込手数料は各自ご負担願います。

また登録参加料は、申込後に聴講を取り消した場合でも、返金は致しません。

年次学術講演会 郵便振替口座：

口座番号：00180 8 16210

口座名：社団法人土木学会

印刷版講演概要集の購入を希望される方

本年度より CD-ROM 版講演概要集と印刷版講演概要集を作成いたします。CD-ROM 版講演概要集は共通セッションを含む全部門の講演原稿等が収録されており、事前に登録参加の手続きを済まされた講演者および聴講者全員に9月上旬までに郵送配布いたします。

印刷版講演概要集は従来通り部門別に印刷され、すべて有料で予約申込により頒布いたします。学会誌7月号綴じ込み

予定の購入申込書によってお申込みください。なお、印刷版講演概要集は事前申込みに応じて必要部数だけ作成し、販売いたします。大会当日は用意させて頂く印刷版講演概要集の数に限りがありますので、売り切れの場合はご容赦ください。

講演プログラム等の詳細につきましては、2000年6月に土木学会ホームページと学会誌7月号において公表します。ご参考ください。

共通セッションテーマ

年次学術講演会では7部門に分かれたセッションを設けず、さらに、これらの7部門を越えた研究および複数の部門に関連する、研究のテーマを対象として、共通セッションを設けます。昨年は17のテーマについて合計242件もの多くの講演が行われ、部門をまたがった活発な議論が展開されました。

今年度の共通セッションには、後掲の12件が仮テーマとして選定されました。共通セッションにおける講演を希望される方は、第一志望欄に希望するセッションを明記して下さい。電子申込みの場合は、セッション選択ページから希望のセッションを選択して下さい。紙面申込みの場合は、CS（はセッション番号）と記して下さい。

また、仮テーマが成立しない場合のために、第二、第三志望欄に一般セッションの名称を必ず書いて下さい。

共通セッションの最終的なテーマ名および構成は、講演申込み完了後、全国大会委員会で決定されます。申込み状況により、共通セッションを構成するに不十分なテーマについては、従来どおり各部門における発表とします。

なお、共通セッションの講演概要もCD-ROM版講演概要集に掲載されます。また、印刷版講演概要集は共通セッションとして単独で販売致します。

CS1 土木技術と水域生態系

水域におけるさまざまな生物の生態を理解し、必要な保全を図ることは、より豊かな環境を実現する土木技術の必須の条件である。その課題として、たとえば生態系に配慮した諸構造物の材質や構成の改善、生態系を支える水域の条件解明、好ましい環境実現のための計画手法の確立などがある。従来の部門を超えた共通の場で情報交換を行い、新たな研究の方向を探るために、11年度に引き続き本タイトルによる共通セッションを提案する、

CS2 河川災害の被災地における諸問題と即時対応

河川災害の発災時においては、被害の拡大防止と住民の安全確保のために、多くの緊急対応に追われることになる。その対応のあり方は、時として被害の大小に大きな影響をもたらすにも関わらず、従来十分な検討は行われていない。本セッションでは、各地の河川災害において生じた即時的問題とその緊急対応をめぐる多様な視点から議論し、今後の河川災害時における対応のあり方を検討したい。

CS3 複合（合成、SRC、混合）構造の特性と設計法

鋼構造、コンクリート構造につぐ第3の構造といわれて久

しい複合構造は、合理的な構造であるがゆえに、最近とくに社会的要望が高く、したがって、各所でその開発研究が盛んに行われつつあります。本セッションでは、鋼、コンクリート、および新材料を用いた合成構造、SRC構造、および混合構造の力学特性に関する実験的・解析的研究成果をはじめ、それらの設計法や施工法、ならびに維持管理にいたるまで広範囲にわたって議論し、この分野の発展に寄与したく考えております。対象構造物は、橋梁の上・下部工のみならず、トンネル、連続地中壁、海岸・海洋構造物など、土木構造物全般を含みます。

CS4 土木構造物のメンテナンス技術の統合化を自指して

構造物のストックが膨大になり、また劣化・損傷に起因する事故が社会問題化するにつれ、メンテナンス技術の発展が強く社会から要請されるようになった。構造物のメンテナンスに関する技術開発・研究は、材料や構造形式を問わず広い視点で行うことが肝要である。本セッションでは、構造物のライフサイクルを通じた様々なメンテナンス技術について、異なる分野間の情報交換と議論を通して、技術開発・研究のさらなる発展を目指す。

CS5 地下空間の多角的活用

都市地下空間利用を総合的な観点から推進するために、都市計画、法制、経済性心理、生理、防災、環境、建設、維持管理、あるいは歴史・文学的側面、といった種々の観点から、地下空間を見直すことが目的。これまでの地下空間利用の実例の多角的視野からの分析・利用を推進するための新しい視点・技術の提案、最新の知見を駆使した計画・実例の紹介等を中心にしたセッション。

CS6 放射性廃棄物の処分技術

放射性廃棄物処分は、具体化に向けて処分技術の体系化の時期を迎えている。地層処分における地下施設的设计・施工は土木技術に基づく事業であり、土木技術者が責任を持って対処することが求められている。その実現に向けた課題は、耐震、岩盤物性評価、地下構造物設計、地下水浸透流、コンクリートの長期的耐久性評価、環境など多岐にわたる。そのため、各部門の研究者が議論できる場を提供するものである。

CS7 地球環境問題・対策技術

地球温暖化、酸性雨、オゾン層破壊、地球規模環境汚染、途上国技術移転・技術協力等、種々の地球規模環境問題の機

構解明や評価，国際協力を始め，対策技術の開発や適用の実績等，技術的な視点からの地球環境問題への取り組みに加えて，社会経済的側面からの取り組みを取り上げる．併せて，土木界において開発され適用されつつある新しい環境対策技術・システムを積極的に取り上げる．

CS8 知的情報処理技術の適用と可能性について

エキスパートシステム，ファジィシステム，ニューラルネットワーク，遺伝的アルゴリズム，カオス，フラクタル，データマイニングなどの知的情報処理技術に関して，各部門の枠をこえて共に討議する場として，これまで過去4回にわたって本タイトルのもとで，共通セッションを開催してきた．

本年度も同じテーマに関する基礎的研究から応用研究まで幅広い研究発表をしていただき，知的情報処理技術に的を絞った討議をしたいと考えている．

CS9 土木分野におけるデジタル画像の利用と可能性

高画質デジタルカメラの普及や画像解析技術の急速な進歩によって，設計・施工データのビジュアル化や工事写真管理などにデジタル画像が手軽に利用されるようになってきた．また，高解像度の衛星データの入手が可能となったり，動画画像も低コストでコンピュータで扱えるようになり，デジタル画像利用の新たな可能性が期待される．

本セッションでは，これらのデジタル画像を土木分野へ適用する種々のシステムに関する論文を募集する．

CS10 リモートセンシング・GISの土木技術への応用

自然環境や都市環境の変化の抽出，自然災害や地域及び都市計画のための観測計測及び解析において，リモートセンシングとGIS（地理情報システム）は，土木工学の各種の分野において必要不可欠な手段となりつつある．特に，水工学，地盤工学，計画学，環境工学，防災工学等において手法論の新しい展開と応用の土木技術への浸透は目を見張るものがある．本セッションでは，異なる分野での新しい知見を披露し，学際的な討議の場を設ける．

CS11 高潔な土木の偉人達 近代日本を築いた技術者の熱く清々しい心

明治～昭和30年代以前の土木技術者の中には，国造りに対する使命感に燃えつつも，土木プロジェクトの高い公共性に鑑み，自らを常に律しつつ，ひたむきで高潔な生涯を送った偉人が多かった．そして，それらの偉人によって真に優れた土木構造物が造り出され，それに対して「土木学会選奨土木遺産」という名称で平成12年から顕彰事業もスタートしよう

としている．土木が本来もつべき理想の姿を21世紀の冒頭で再確認しておくことは，現代の混迷した土木風土にとって（精神的なカルチャーショックになるかもしれないが）是非とも必要なことである．土木史研究委員会ではこの10年近く「土木遺産」に傾倒してきたが，物だけではなく，それを造った人，特にその心について伝えるべきものは後世に伝えようと考え，今回人物中心の共通セッションの企画を提案することにした．

CS12 道路橋床版

近年，橋梁における床版の重要性が認識されるようになってきた．既設床版に対しては維持管理のシステム化や各種補修補強方法が開発され，新設床版では高耐久化・長支間化が進められている．また，将来導入される性能照査型設計への対応も重要な課題の一つであり，さらに合理的な床版の開発も期待されている．本年度も床版に関する技術について本セッションにおいて活発な討議を行いたい．

部門別セッション名

第 部門

固体力学, 計算力学 (構造), 計算力学 (非構造), 計算力学 (アルゴリズム), 弾塑性, 有限変位, 座屈・耐荷力 (桁), 座屈・耐荷力 (柱), 座屈・耐荷力 (板), 座屈, 耐荷力 (その他), 骨組・骨組部材, 薄肉構造, 板, シェル, 非破壊評価, 破壊力学, 疲労, 溶接, 接合, 継手, 合成構造 (理論・実験), 合成構造 (設計・施工), 床板, 橋梁一般 (設計), 橋梁一般 (施工), 橋梁一般 (測定), エキスパートシステム, 特殊構造, 最適設計, 安全性・信頼性, 維持管理, 構造計画, 構造景観, 橋梁振動 (理論), 橋梁振動 (実験・測定), 耐風・風工学 (数値流体), 耐風・風工学 (基礎), 耐風・風工学 (応答予測・制御), 耐風・風工学 (事例報告・観測), 振動, 波動, 衝撃 (解析), 衝撃 (実験), 振動制御 (パッシブ), 振動制御 (アクティブ), 振動制御 (事例報告), 免震構造 (理論・設計), 免震構造 (実験・観測), 震害, 地震動 (震源特性), 地震動 (長周期), 地盤振動 (観測), 地盤振動 (解析), 地震危険度, 動的応答解析法, 地震応答解析, 構造同定, 橋梁の耐震, 基礎の耐震 (実験・観測), 基礎の耐震 (解析), ダムの耐震, トンネルの耐震, 地中建造物の耐震, タンクの耐震, 都市施設の耐震, 地震防災, 耐震設計法, 宇宙建造物

第 部門

波動, 碎波・遡上, 風波・不規則波, 高潮・津波・長周期波, 海底・海水面境界過程, 沿岸域の流れ, 沿岸域の水質・生態系, 波力・流体力・氷力・地震力, 波・流れ制御・利用建造物, 海岸・海洋・港湾・水産施設, 漂砂機構, 飛砂・飛沫, 海岸地形, 漂砂制御, 局所洗掘, 底泥, 海底地盤, 海岸災害・防災, 海岸環境, 海岸・海洋の資源・利用, 港湾・海岸計画, 流体力学一般, 管路の水理, 開水路の水理・乱流, 数値流体力学, 建造物周辺の流れ・洗掘, 流体力, 拡散・分散, 密度流, 流砂 (土石流, 泥流, 火砕流, 掃流砂, 浮遊砂, ウォッシュロード), 土砂の生産・流出, 土砂収支, 流路・河床形態, 流路・河床変動, 河川地形, 河相, 流水・流砂の制御, 流路・河床の制御, 水系土砂管理, 河道の水理, 氾濫流の水理, 植生水理, 河川工法と水理, 水理建造物, 河口の水理・水質現象, 湖沼・閉鎖水域の水理・水質現象, 水界の生物現象, 河川湖沼環境, 地下水理・地下水文, 水理計測, 水文観測, 水文統計, 流出解析, 洪水予報, 流況制御, 河川計画・管理, 水資源計画・管理, 大気水象 (降水, 雲), マクロスケール水文過程, 大気陸面相互作用, (蒸発散, 融雪, 水・エネルギー循環), 水災害, 国際的水問題, 国際協力

第 部門

土の物理化学的性質, 砂の変形強度, 粘土の変形強度, 土の動的性質, 地盤の動的性質, 圧縮・圧密, 土圧, 地圧, 斜面安定, 地盤の応力と変形, 支持力, 透水・浸透, 岩の性質, 岩の工学的性質, 試験法・調査法, 岩盤評価, 現場計測, 杭, 基礎工, トンネル, シールドトンネル, 地下空洞で地下建造物, 地下利用, 掘削, 土留め, 土質安定処理・地盤改良, 補強土, 締固め, 路床・路盤, フィルダム, 凍結・凍土, 特殊土, 地盤環境, 安全性・信頼性, 数値解析, 施工機械, 火山工学

第 部門

計画理論・土木史, システム分析, 信頼性・リスク分析, 社会・経済分析評価, プロジェクト評価, 意識調査・分析, 施工管理計画, 地域・都市計画, 土地利用計画, 計画情報・情報処理, 地域調査, 公共交通, 駐車場・駅前広場, 測量・リモートセンシング, 景観工学, コンピュータグラフィックス, 観光・余暇計画, 環境計画, 資源・エネルギー, 防災, 歩行者・自転車交通, 地区交通, 高齢者・身障者交通, 道路工学, 鉄道工学, 交通発生, 交通分布, 交通手段分担, 交通配分, 交通ネットワーク, 交通アセスメント, 交通需要管理, 交通情報, 交通サービス, 港湾計画, 空港計画, 物流, 交通流, 交通制御, 交通公害, 交通事故, Infrastructure Planning in Developing Countries, Demand Fore Casting, Traffic Management

第 部門

舗装一般, 舗装の路面評価, 舗装の構造評価, 路盤・舗装用粒状材料, アスファルト材料, 特殊舗装材料, セメント系舗装, リサイクル, 材料一般, 新素材・新材料, セメント, 骨材, 混和材料, フレッシュコンクリート, 高流動コンクリート, 水中コンクリート, 海洋コンクリート, 繊維補強コンクリート, 連続繊維補強コンクリート, プレストレストコンクリート, 特殊コンクリート, コンクリート製品, 物性, 引張・圧縮, クリープ・収縮, ひび割れ, 温度応力, 施工, ポンプ圧送, 締め固め, 維持管理, 耐久性, 腐食, 防食, 凍結融解, アルカリ骨材反応, 非破壊検査・診断, 補修・補強, 破壊力学, 曲げ, せん断・ねじり, 耐震, 付着・継手, 疲労・衝撃, 合成・複合構造, 構造設計, 数値解析

第 部門

建設マネジメント理論，入札契約システム，積算・見積システム，建設業に関わる法，建設労働安全衛生，土木技術者の倫理，建設契約約款の国際化，建設プロジェクト組織論，建設プロジェクト執行体制，建設技術評価，経営事項審査，プロジェクト評価，建設労働者，建設コンサルタント，専門工事業者，建設材料，建設機械，施工計画，施工設備，品質保証，受入れ検査，品質管理，工程管理，安全管理，施工の自動化・省力（人）化，省エネルギー，建設ロボット，維持・補修・補強，検査技術，建設資材調達，技術開発，生産性向上，透明性向上，競争性向上，情報化施工，CAD，CG，建設CLAS，通信ネットワーク，データベース，知的情報処理，マルチメディア，建設情報の規格・標準化，測量・計測システム，河川構造物，港湾構造物，海洋構造物，空港構造物，橋梁，各種基礎，シールドトンネル，山岳トンネル，開削トンネル，ダム，土構造物，地盤改良，土留め，地中壁，特殊構造物，PFI（BOT），LCC，PM，CM，GIS，GPS，インターネット，イントラネット，エクストラネット，リモートセンシング

第 部門

環境計画，環境社会システム，途上国環境問題，環境意識・環境教育，環境倫理，環境経済，ライフスタイル，環境評価・影響予測，物質循環システム，ライフサイクルアセスメント，環境リスク管理，環境モニタリング・解析，生態系，水辺環境，流域環境，森林・植生，緑化，環境保全，環境創造，生態工学，バイオレメディエーション，環境浄化技術，自然浄化機能，水環境モデリング，水環境（河川，湖沼，海域），底泥環境，浄水処理，物理化学処理，嫌気性処理，好気性処理，膜分離・処理，生物膜処理，栄養塩除去，高度処理，污泥処理・処分・資源化，廃棄物収集・処理・処分計画，産業・建設廃棄物のリサイクル，都市環境，大気環境，悪臭，熱環境・エネルギー，騒音・振動，遺伝子工学，微生物，毒性評価，有害物質環境汚染，内分泌攪乱化学物質汚染，土壌・地下水汚染，水資源，上下水道管理，雨水対策，流出制御，都市雨水管理

共通セッション

- CS1 土木技術と水域生態系
- CS2 河川災害の被災地における諸問題と即時対応
- CS3 複合（合成，SRC，混合）構造の特性と設計法
- CS4 土木構造物のメンテナンス技術の統合化を自指して
- CS5 地下空間の多角的活用
- CS6 放射性廃棄物の処分技術
- CS7 地球環境問題・対策技術
- CS8 知的情報処理技術の適用と可能性について
- CS9 土木分野におけるデジタル画像の利用と可能性
- CS10 リモートセンシング・GISの土木技術への応用
- CS11 高潔な土木の偉人達 近代日本を築いた技術者の熱く清々しい心
- CS12 道路橋床版